



## さいとう 誠 誠策で勝つ

船橋市議会議員

〒273-0021 船橋市海神4-2-2-12

TEL・FAX 047-431-1717

E-mail [seisaku@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:seisaku@jasmine.ocn.ne.jp)

URL <http://seisaku-makoto.com>

### ごみ減量先進市視察

5月7日、市議会市民環境経済委員会、ごみ減量先進都市、川崎市・藤沢市を視察しました。

川崎市は政令指定都市であり、人口150万人の大都市です。

川崎市では、ごみ焼却場を4か所から3か所へ減らすという前提があることから、可燃ごみを減量させる取り組みをしました。

元々1週間に6回収するという他市にはないサービスをしていましたが、平成19年に週3回に減らし、そして、平成25年9月から週2回に減らし、プラスチック製容器包装ごみ(トレイ・レジ袋・網・ネット・卵パック・緩衝材・カップ類・ボトル類など)の収集を全市に拡大しました。

可燃ごみ収集回数を3回から2回に減らすときは、1年前に発表して、詳細な説明は平成25年年明けからスタートしたようです。

また、ミックスペーパー(新聞・雑誌・段ボール・汚れている紙・臭いの強い紙以外の全ての雑紙)については、平成18年にモデル実施し、平成23年3月に全市拡大。

プラスチックごみについては、平成23年3月40%の地区で実施し、平成25年9月に全市拡大しました。

ミックスペーパーやプラスチックごみの分別率は、35~40%であり、先進市の50%超を目標にしているとのこと。

可燃ごみ収集回数を2回にしたことで、可燃ごみは27314トン削減し、ミックスペーパーは3725トン増、プラスチックは8617トン増となったそうです。

つまり、12342トンは資源化し、14972トンはごみ発生抑制になったと考えられます。

発生抑制の詳細な分析はできて

## ごみ減量先進市視察

いないが、おそらく、買い物の際、余計な包装・プラスチック・レジ袋などをもたらさないようになったからではないかとのことです。

船橋市の可燃ごみ収集回数変更へのプロセスには、丁寧さを欠いたと言わざるをえないが、いづれにしても、可燃ごみ削減をしていかななくてはならないと痛感しました。

焼却灰を処理する最終処分場への負担を減らさなくてはなりません。

午後は、藤沢市を視察しました。

藤沢市は人口43万人です。

最終処分場が1カ所のみとなっており、延命化のため、焼却灰の溶融資源化を図っています。

焼却灰の全量を資源化(道路の路盤材)しているとのこと。

このようなことから、ごみ減量に積極的に取り組んでいます。

平成19年4月から、新聞・段ボール・古布類等の除いて、戸別収集をスタートさせました。

前段階で、モデル地区をつくり、平成17年度2000世帯、18年度3万世帯で試行。

戸建ての場合、敷地と道路の境にごみを出し、集合住宅の場合、専用集積所にごみを出すとのこと。

ごみ収集作業員は、不適切なごみが出なくなり、ごみで汚くなったステ

ーションの清掃の手間がなくなり、作業が合理的になったそうです。

高齢者、障がい世帯には、家庭内まで入り、新聞等も含めて、ごみ収集を実施しています。

更に、平成19年10月から、可燃ごみ有料化をスタートしました。(10リットル袋10枚200円、20リットル袋10枚400円等)

20リットル袋のごみ処理に約156円かかっているそうです。

25%を市民に負担してほしいとのこと、1枚約40円の価格です。

スタート前に、2年半準備期間を設けて説明会を実施し、資源化と最終処分場の延命化のためと説明。

また、プラスチック製容器包装ごみについては、平成14年4月にリサイクル開始。商品プラスチック(パケツ・衣装ケース等)については、平成25年4月からリサイクル開始。

藤沢市の場合は、戸別収集と有料化をセットで実施しました。

最終処分場への負担軽減・二酸化炭素削減・資源化のためには、ごみ減量は必要であり、反対する人はいないと思います。

ただし、有料化やごみ収集回数の変更については、何年も前から、住民の皆様へ説明し、丁寧な議論をするべきであると考えます。